

事業報告

NEC 森の人づくり講座/2007・秋

開催日：2007 年11月23日(金)～27日(火)

この講座は14年間もの間、NECに支えられて続けることができた。それは、この講座に社会的意義があるからだといえる。修了生がつくるネットワークの活動も活発になってきた。社会に出て、環境教育の分野で活躍する修了生も着実に増えてきた。彼らは、この講座が人生を考える上で転機になったと云う。

今回の15期生で523名の受講生を迎え入れたことになる。これからも多くの若者たちに未来を開拓する手助けをしていきたい。

この講座は、環境教育に関心のある学生を全国から募集して開催している。彼らが社会に羽ばたいた後に、各方面で環境教育のリーダーシップを発揮できる人材となるために、以下の点に考慮して構成をした。

- ・前期生・後期生のつながりの中で、人の環をどう生かすか。
- ・考えるよりまず行動。頭でしか理解していなかったものを、体験を通してどのように腑に落とすか。
- ・講座で学んだことを、実生活の中や社会に出て企業の中でどう生かすか。

このねらいを十分に感じ、実践していける人材を養成するこの講座。

Aコース：オークヴィレッジ／森林たくみ塾

Bコース：キープ・フォレスターズスクール

の2コースに分かれてどのように開催されたか、それぞれの5日間を、以下に報告いたします。

プログラム紹介

Aコース
オークヴィレッジ／森林たくみ塾

場所
岐阜県高山市清見町

●講座のねらい

14期生：「前期講座で自分たちが得たもの、学んだもの」を、15期生に自分の言葉として「いかに伝えられるか」

15期生：環境問題解決のための「具体的な行動のひとつ」として「森の手入れを実践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、知識を腑に落とす。

●講座中に伝えたいこと

- ①知識を蓄えたり考えたりするよりも、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要
- ②地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定機能への期待感を理解する
- ③その機能を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない
- ④一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す
- ⑤そのために、人の環＝人を束ねる仕掛け（ネットワーク）づくりが大切
- ⑥森の手入れをおこなうにあたって、道具の的確な使用法と安全な作業について理解する

●そのために大切にしたいこと

- ①森での実践的な活動を主軸とする
- ②森づくり活動には、森を面白がる視点も重要
- ③体を使って実体験する（頭でっかちにならない!）
- ④何事もやってみる（やらなきゃ何も進まない!）

●プログラム進行表

第1日目／11月23日(金)

この日のテーマ:「森の人」に出逢う日

14:00	受付開始
14:30	開講式／インフォメーション
14:50	アイスブレイク
15:20	移動
15:40	14期生 実技「ふり返り」前期講座を思い出そう 15期生 実技「導入編」まずは伐ってみよう
16:40	移動
17:00	14期生 意見交換「森づくりを15期生にどう伝えるか？」 15期生 意見交換「なぜ森の手入れが必要なのか」14期生への質問状
17:30	小講義「もっともっと森のこと」川尻秀樹の飽くなき探究心
18:00	夕食
19:00	「森人交流会」
20:30	終了

第2日目／11月24日(土)

この日のテーマ: 受け継がれるもの(伝わるもの)

- 07:30 朝食
09:00 移動
09:30 14期生 実技「森人事始め」森での実践を通して受け渡すもの
15期生 実技「森人事始め」森での実践を通して受け継ぐもの
- 11:30 移動
12:00 昼食
13:00 森人がつながる「引き継ぎの儀」
14:00 14期生送り出し
- ※※※ここから15期生のみ※※※
- 14:30 小講義「どうやって森を面白がるか」森の潜在力を引き出す
15:30 実技「アースアートで干支づくり」
17:30 フリータイム(森人ブログの記入)
18:00 夕食
19:00 自由交流会

第3日目／11月25日(日)

この日のテーマ: モノづくりから始まる森づくり

- 07:30 朝食
08:15 移動
08:45 会場到着・準備
10:00 プログラム「親子ふれあい教室」(一般公募で行われたイベントに参加)
12:30 昼食
13:10 ふりかえり「プログラムに参加して」
13:40 移動
14:40 実技「森づくり事始め」
16:00 講義「稲本正 特別講座」
17:00 移動
17:30 フリータイム(森人ブログの記入)
18:00 夕食
19:00 講義「自然への理解」
20:00 終了
自由交流会

第4日目／11月26日(月)

この日のテーマ: 森づくりの実感

08:00 朝食
09:00 移動
09:30 実技「森づくり実践編」
12:30 昼食(森の中でのお弁当とトン汁)
13:00 講義「森が動く」
13:30 フリー活動
14:30 移動
15:00 見学「オークヴィレッジ・ショールーム」森の資源を生かす技
16:00 移動
16:15 見学「森林たくみ塾」技は身に付けるもの
16:50 移動
17:00 フリータイム(森人ブログの記入)
18:00 夕食
19:00 講義「人の環づくり」
20:00 森人大交流会

第5日目／6月20日(水)

この日のテーマ: 次につなげるために

08:00 朝食
09:00 小講義「企業のCSR活動の実際」講座で学んだことを社会で生かす
09:40 スライドショー「この講座をふり返って」
10:00 ひとりでふり返り
12:00 昼食
13:00 全体のふり返り
14:10 閉講式、記念撮影、
15:00 解散

1日目：「森の人」に出逢う日

15期生は、お互いに知らないもの同士が駅に集合する。そこであらかじめミッションを伝えておいた。「集合時間までに、他の参加者を見つけて声を掛けること」。人通りの多い中、必要なのは勇気を持って一言声を掛けること。そこから新たなコミュニケーションが始まる。

今回の後期講座は、講座の始まる前から勢いが違う。14期生 A・B 両コースの学生が、前日から長野に一泊して何やら研修しているらしい。

開講式

14期生たちは宿泊先の長野から、たくさんの笑顔と共にやってきた。3名の修了生を含め懐かしい顔ぶれが揃った。修了生の一人はこの数年毎回講座に参加してくれ、和やかな雰囲気づくりと共に人の環づくりに重要な役回りを担ってくれている。一方で少しばかり緊張気味の15期生たち。これから始まる講座に、不安と期待感でいっぱいの様子だ。

山々がうっすらと雪化粧をした寒風の中で、NEC 森の人づくり講座/2007・秋が始まった。



はじまりの挨拶

『この講座が14年も続いているのは、それだけこの講座への期待感があるからです。皆さんは社会的に意味のある講座に参加しているんだということを、まずは認識しておいてください。この講座では知識の吸収だけに終わらず、体験を通して自分で納得することが大切です。それを「腑に落ちる」といいます。そして皆さんには、この講座で自分なりに学んだことを、いろいろな形で社会に還元していくことが期待されています。』



アイスブレイク

これだけの人数が集うと、名前を覚えるのも一苦労だ。相手の顔と名まえが一致しないと、その後の円滑なコミュニケーションが生まれない。そこで顔の特徴を手掛かりに相手を探すゲームを楽しんで、お互いの顔と名まえをつなげる工夫をした。



活動地へ移動

皆伐跡地に、広葉樹の植樹を行ってから10年経過した山を前回から活動地にしている。10年も経つと、人も踏み入れないほど密集した中低木の雑木林となっている。2007・夏の講座で除伐の手入れをした場所と、そうでない場所の違いが見て取れる



実技「ふり返り編」14期生

意見交換「森づくりを15期生にどう伝えるか」14期生

前期講座で自分に何が身に付いたのか、何が分かったのかを思い出しながら頭の整理をした。森に入る前に KYT で安全確認をすることを忘れず、除伐の作業を行った。

森をどう手入れするかと言う知識ではなく、手入れを通して変化してきた気持ちを大切にすることの方が重要だと言うことをみんなで再認識した。夕食後の交流会もほどほどに、14期生は夜遅くまでこのテーマについて真剣に語り合っていた。



実技「導入編」まずは木を伐ってみよう 15期生

15期生たちは、開会式早々に雪のある活動地に来て、期待と不安の入り混じった表情をしている。

今回は敢えて事前の解説をしないで、森の手入れの作業に入った。安全な道具の扱い方と、「傘を差して歩ける程度に込み入った木を伐ってください」と方法を指示したのみ。何のために森の手入れをするのか、どうやって手入れするのか分からない14期生には戸惑いの表情が浮かぶ。ここでのスタッフの役割は、安全管理に徹した。

ここでのねらいは、森の手入れの方法を覚えてもらうのではない。説明を頭で理解する前に、まずは行動してみる。行動する中で変化する自分の気持ちを素直に読み取ること。そして自分の中から生じてきた疑問を大切にすること。大学とは違う、現場の中で学ぶスタイルを身に付けてもらうのがねらいだ。



意見交換「なぜ森の手入れが必要なのか」15期生

実技を通じて何を感じただろうか。宿に帰って、質問や疑問をまとめてみた。「伐った木はどうするのか?」「伐る木と残す木をどう選ぶのか?」「どれくらいの間隔で伐るのか?」「木の根元がなぜ曲がっているのか?」など、基本的なことから、難しいことまで様々な質問が挙がってきた。質問を整理して「質問状」を作成、14期生に渡すことにした。明日の実技の中では、この質問状の内容を反映して、14期生の言葉で15期生に伝えることになる。



小講義「もっともっと森のこと」

森の手入れをする上で理解しておかなければいけない基本情報として、日本の森林が置かれている現状とその歴史的背景、一般の人の森林に対する理解度、そして森林教育の効果などについて伝えた。知っているようで知らない森林の現状をデータで示されて、学生たちの森に対する危機意識も高まってきたようだ。

森人交流会

初日の夜は、お互いをより深く知るための時間となる。14期生からは、「この半年間で変わったこと」を話してもらった。前期講座でモノづくりの楽しみに目覚め道具を購入してモノづくりを楽しんでいた、積極的に色々な活動に参加するようになったり、前期講座の成果が見える内容だった。前期講座が受講生たちに気づきを与えたようだ。修了生を中心に新しく始まった「森×人」の活動の話には、彼らの熱い思いが伝わってきた。

15期生には「森林や環境に目覚めたきっかけ」を話してもらった。親の影響であったり、周りの自然が少なくなってきた実感などであったり、一人ひとりいろいろなきっかけがあり、お互いを理解する良い情報が得られた。

引き続き、お土産の披露と共に乾杯。夜遅くまで交流会を楽しんだ。(美酒「愛酔で笑呼」美味しく頂きました。)



2日目：受け継がれるもの（伝わるもの）



実技「森人事始め」 森での実践を通して受け渡すもの

弟子入りした15期生を引き連れ、兄弟子の14期生が主導する形で作業を進めた。我々スタッフは師匠として、彼らの作業を遠巻きに見届けるのが役割だ。

14期生は、作業に入る前に安全教育(KYT)も忘れず説明をしていた。前期講座で学んだことをどのように伝えるべきか、14期生は夜遅くまで話し合っていたようだ。話し方の上手・下手こそあれ、それぞれが一生懸命伝えようとする気持ちから伝わるメッセージは、15期生にしっかりと届いているようだ。

経験を通じて吸収した知識を、自分の言葉として人へ伝えていくことの大切さ。言葉に出して人に伝えることで、自分がどれだけ理解で



きているのかも分かる。

森人がつながる「引き継ぎの儀」

今回より、山師にとって必携の「山ナタ」を代々引き継いでいくことにした。山ナタには14期生の名前が彼らの思いと共に焼きペンで書き込まれている。

14期生一人ひとりから、15期生にメッセージが送られた。

- ・「ここは素敵な人に出会える場所。人との出逢いを大切に」
- ・「ここで感じたことを、周りに伝えてください。」
- ・「横のつながりを大切に。」
- ・「NECを思いっきり楽しんでください。」
- ・「思いを思いだけで終わらせず、行動に移す場として「森×人」を立ち上げた。みんなも参加してください。」



たった2日間の出逢いだが、彼らから15期生が受け継いだものは、目には見えないが重みのあるものだったに違いない。



小講義「どうやって森を面白がるか」

森への興味の引き出し方として、自らが森を面白がることは重要な視点だ。そうでなければ他人が面白さに気づくはずもない。森づくりから、この後行なう「アースアートで干支づくり」へと頭を切り替えるための話題提供を、スライドを交えて話した。



アースアートで干支づくり

木の実や葉っぱ・木の枝の、色や形を生かして作品づくりをした。今回のお題は来年の干支「ねずみ」。

完成見本はない。道具の安全な使い方の説明だけで、作り方の説明もない。自由な発想で、どこまで熱中して手を使ったモノづくりを楽しむことができるかが重要な要素だ。

14期生のみんなは手を動かしては止め、作品とにらめっこ。考え込んでしまい、全く手を動かせない学生もいる。2時間があっという間に過ぎてしまった。そこで夕食後も時間を延長してようやく作品を完成させることができた。作る楽しさより生みの苦しみのほうが多かったようだ。



翌日一般の親子が参加する「親子ふれあい教室」に合流する。同じようにアースアートで干支づくりを行なうが、参加者の動きとその作品に圧倒されることになった。

3日目：モノづくりから始まる森づくり



プログラム「親子ふれあい教室」

今日は一般の親子30組との交流の場となる。

子どもの目線でアドバイスをする学生、子どものやる気を引き出す努力をする学生、自分も作って楽しむ学生、それぞれにプログラムを楽しんでいるようだ。

プログラム終了後のふり返りで感想を聞いてみた。

- ・「子どもの解決力に驚いた！」
- ・「道具の使い方が上手い！」
- ・「子どもの想像力に感動！」
- ・「モノづくりは頭でなく、手で考えるんだと言われたことが、どういことなのかやっと分かった」

子どもたちは本当に森を面白がっていたようだ。その姿を見て学生が学んだことはたくさんあったようだ。

実技「森づくり事始め」

森の手入れの具体例として、近くにある林齢が80年ほどの演習林を見学した。森の中はあいにくの積雪だったが、一面刈り払われた笹藪の様子が見て取れた。雪を掘り返しながらドングリを拾い、持ち帰って鉢に植えてみることにした。

続いて、谷の奥にあるミズナラの大木を訪れ、樹齢900年の、悠久の時間に思いを馳せた。

講義「稲本正 特別講座」

オークヴィレッジの代表でJEEFの常務理事でもある稲本氏からスライドショーを交えながら、環境問題と森林について話を頂いた。

質疑応答の中で、マイ箸を持っていないことや映画「不都合な真実」を見ていないことなどから、知識はあっても環境問題を自分の事として捉えていないという本質と、環境問題に対する基礎知識の少なさを指摘され、学生たちは目が覚めた思いだったに違いない。

講義「自然への理解」

西洋的な自然観と、日本人が本来持っている自然観について問題点を整理した。自然を認識対象とすることから生まれる「Nature」という概念。そして自分と自然を同一視することから生まれる「自然(じねん)」という概念。われわれはこの二つを未整理のままに、自然保護をはじめとした環境教育を行ってきたことに、混乱の原因がある。

自由交流会

夕方から合流してくれた修了生の二人は、この講座がその後の進路を決めるきっかけとなったという。現在の活躍と共に、自分にとって

この講座が何であったのかを話してもらったが、学生たちには大いに参考になる内容だった。

4日目：森づくりの実感



森づくり実践編

2班に分かれて作業に入った。今日は、作業の意味を考えながらの除伐となった。

針葉樹林に比べ、広葉樹林の手入れの方法は現代の日本ではまだ確立されているとは言えない。手入れの必要性が認識されていないのかもしれないのが現状だろう。それを学びに来たつもりなのに、教えてもらえぬ不可解さを乗り越えた学生たちは、その答えを探ることの重要性を知る。



講義「森が動く」

時として、人間が手を加えないことが森を守ることだと受け止められる場合がある。そこで、森林の遷移と退行の知識を交えて、森と人間の関わりあいの中で森がどう動くのかを理解しておく、森の手入れが分かりやすくなる。



見学「オークヴィレッジ・ショールーム」

「100年育った木は、100年使える家具に」をスローガンに掲げてモノづくりを行なうオークヴィレッジの作品を見学した。適材適所で木が利用されている作品を見て、森の手入れとは違う方法でも森を元気にする方法があるんだということを吸収した。



見学「森林たくみ塾」

引き続き、オークヴィレッジの理念を受け継いでモノづくりのプロを養成するたくみ塾を見学した。自分たちと同世代の若者たちが熱心に修行する様子は、学生たちにどう写っただろう。

講義「人の環づくり」

一人ひとりの力は小さくても、一人のプロとたくさんのアマチュアが集まれば大きな力になる。スライドで見る森づくりの実例で、人の環づくりの大切さを感じた。

5日目：次につなげるために



講座「企業のCSR活動」

NEC 社会貢献室 東さまより、NEC の CSR 活動の実際を紹介していただいた。これから社会に出る学生たちには、こうした情報は必須の情報だ。利益の社会還元ではなく、事業の柱として環境問題に取り組む企業の姿勢は、学生たちには新鮮だったようだ。学生たちからも活発に質問が挙がった。



スライドショー「この講座をふり返って」

この5日間をスライドショーでふり返った。たくさんの思い出が駆け巡る。

ひとりでふり返り

昼までの時間を独りになって過ごした。一人ひとりの時間の過ごし方でこの5日間をゆっくりふり返り、自分の「腑に落とす」ことに向かった。

全体のふり返り

一人ずつ、この5日間のふり返りを話してもらった。みんな短い時間では話きれないほどたくさんのことを吸収したようだ。

閉校式

半年後、成長した姿を見せることを約束して、5日間の講座を終了した。



■A コース: オークヴィレッジ/森林たくみ塾

講座終了後の15期生の感想です。

あなたはこの講座で、どんな交流を持つことができましたか。

- 心の部分で交流ができた。森が僕らをつなげてくれたからだと思う。
- 具体的な活動を始めている 14 期生のアグレッシブさとそれを支える考え方は自分にもいいヒントになりそう。
- 環境問題に取り組むきっかけとなったものを聞いたことは、問題意識の低い自分にはとても刺激的でした。
- 周りの人ここまで真剣に自分の思いや活動内容を説明できたことは初めて。
- 環境を考えるだけでなく、環境問題に対して行動することについて交流できた。
- この5日間で本当に自分が変わったと思う。今後の人生、大学生活を大きく左右する5日間になった。

森からどんな気づきを得ることができましたか。

- 森のものを使って何かを作るおもしろさ。
- 環境問題を考えるにあたって、楽しむことこそ大事であるということに気づきました。
- 大学で森林について学んでいるにもかかわらず、気持ちがついてこなかった。この5日間で大きく気持ちが変わった。今では心から森に感謝できる自分がいる。とても嬉しい。
- 薄れてしまった森と人との関わりを、森林資源としての側面と楽しむ資源としての側面の両方から再構築していく必要があると感じた。
- 特別な知識がない人でも、人が集まれば大きなことができる。楽しさを見つけることが大切。まず行動すること。
- 環境問題解決を目的とするのではなく、結果として解決につながるような取り組みを考える必要がある。

どんな森人になろうと思いましたか。

- 環境問題の深刻さを伝えるより前に、自然の楽しさを伝えたい。
- 森をこの先もずっと好きな人でいたい。そしてその森の良さをたくさんの人に伝えていける人になりたい。
- 服飾業界に入ってエコ活動がやってみたい。

講座で得た体験を日常生活の中にどのように反映していきますか。

- 木の製品をつかう、つくる。
- 友だちや出逢った人にこのプログラムのことを伝える。
- 森づくりを地元で広めていきたい。
- マイ箸・マイコップを持つ。
- 頭より先に行動に移す。
- 水を飲むたびに森林のことを思う。
- 卒業制作で森を伝えられるおもちゃを作り、後輩たちに環境を伝える。

1年後の目標は何ですか。

- 「環境活動」と「働くこと」の関係に自分なりの折り合いを付ける。
- 行動する前に迷うのではなく、まずは行動。
- どんどん現場に飛び込む。

事業報告

NEC 森の人づくり講座/2007・秋

開催日：2007 年11月23日(金)～27日(火)

この講座は14年間もの間、NECに支えられて続けることができた。それは、この講座に社会的意義があるからだといえる。修了生がつくるネットワークの活動も活発になってきた。社会に出て、環境教育の分野で活躍する修了生も着実に増えてきた。彼らは、この講座が人生を考える上で転機になったと云う。

今回の15期生で523名の受講生を迎え入れたことになる。これからも多くの若者たちに未来を開拓する手助けをしていきたい。

この講座は、環境教育に関心のある学生を全国から募集して開催している。彼らが社会に羽ばたいた後に、各方面で環境教育のリーダーシップを発揮できる人材となるために、以下の点に考慮して構成をした。

- ・前期生・後期生のつながりの中で、人の環をどう生かすか。
- ・考えるよりまず行動。頭でしか理解していなかったものを、体験を通してどのように腑に落とすか。
- ・講座で学んだことを、実生活の中や社会に出て企業の中でどう生かすか。

このねらいを十分に感じ、実践していける人材を養成するこの講座。

Aコース：オークヴィレッジ／森林たくみ塾

Bコース：キープ・フォレスターズスクール

の2コースに分かれてどのように開催されたか、それぞれの5日間を、以下に報告いたします。

プログラム紹介

Bコース
キープ・フォレストーズスクール

場所
山梨県北杜市高根町

●講座のねらい

- ①環境教育の意義について理解すること
- ②インタープリテーションのおもしろさやその意味を理解すること
- ③自分がどのように環境教育に関わっていきたいのかを考えるきっかけになること
- ③全国の仲間とのネットワークを作ること
- ④あなた自身のねらいを達成すること

●そのために大切にしたいこと

- ①体験から学ぶこと（まずは、体験することから）
- ②お互いから学ぶこと（相互啓発、相互学習、みんなが先生）
- ③楽しみながら学ぶこと（あそび心で!）

●プログラム進行表

第1日目／11月23日(金・祝)

この日のテーマ: 人・場所に出逢い、知る

12:00	14期生 受付開始
12:30	昼食
13:00	講座準備
14:00	15期生 受付開始
14:30	開講式
15:00	講座のウォーミングアップ
15:30	環境教育プログラムの体験①
16:30	休憩
17:00	オリエンテーション&自己紹介
18:00	夕食
19:15	14期生 環境教育プログラム実施のオリエンテーション&準備
	15期生 講義:環境教育概論①
20:15	一日を整理する時間
20:45	自由交流会

第2日目／11月24日(土)
この日のテーマ: 思いをつなぐ

07:10 14期生 環境教育プログラム実施の準備
15期生 環境教育プログラムの体験②

08:00 朝食

09:15 14期生 環境教育プログラムの実施
15期生 環境教育プログラムの体験③

10:45 休憩

11:00 14期生 プログラム実施のふりかえりとわかちあい
15期生 講義: 環境教育概論②

11:30 講義: 企業における CSR について

12:00 昼食

13:00 ディスカッション「日本の森を元気にする」

13:45 14期生クロージング

14:30 14期生お見送り

※※※これより15期生のみ※※※

16:00 セッション①

16:45 休憩

17:00 講義: 体験学習法概論

18:00 夕食

19:15 環境教育プログラムの体験(ナイトハイク)

20:30 一日を整理する時間

20:45 終了予定

第3日目／11月25日(日)
この日のテーマ: 自然と人をつながる

07:00 自分たちでつくる時間(任意)

08:00 朝食

09:15 森林管理作業体験(昼食含む)

13:30 休憩

14:00 「デジカメスライドショー作り」オリエンテーション

14:30 「デジカメスライドショー作り」

17:00 「デジカメスライドショー」発表会

18:00 夕食

19:15 「デジカメスライドショー」ふりかえりとわかちあい

20:00 講義: 体験学習法の理解

20:15 環境教育プログラム実施 & 相互評価オリエンテーション

20:45 1日を整理する時間

21:00 終了予定

第4日目／11月26日(月)

この日のテーマ:

07:00 環境教育プログラムの実施(任意)
08:00 朝食
10:00 環境教育プログラム実施&相互評価
12:00 昼食
13:00 環境教育プログラムの練り直し
14:00 休憩
16:00 講義:安全対策
17:00 講義:環境教育概論③
17:45 1日を整理する時間
18:00 夕食
以降、自由交流会

第5日目／11月27日(火)

この日のテーマ:

08:00 朝食
09:30 補いの講義、質疑応答
10:15 ディスカッション
11:15 講座のふりかえり
12:00 昼食
13:15 講座のわかちあい
14:00 クロージング
14:30 終了

1日目：人・場所に出逢い、知る



講座の準備(ふりかえりと目標設定/14期生)

実習：環境教育プログラム実施の準備(14期生)

15期生よりも一足早く14期生は集まり、スライドショーを見ながら前期講座の様子をふりかえる。後期講座を迎えるに当たり、改めて自分の目標を設定する。その後、環境教育プログラム実施に向けて、グループに分かれて準備を進めた。開講式までの限られた時間で、グループ内の意見をまとめ、プログラムを組み立てていく。



開講式/オリエンテーション

15期生も無事に到着し、14期9名、15期生10名の計19名が会場のフォレスターズ・キャンプ場に顔を揃えた。14期生同士は久しぶりの再会に笑みがこぼれるが、対照的に15期生は緊張した面持ちで開講式の席につき、4泊5日の講座の幕が開いた。

実習：環境教育プログラムの実施(14期生) & 体験①(15期生)

14期生が前期の実習で行った環境教育プログラムを、15期生を対象に実施する時間。前回の改善点を活かしたプログラム内容になっていた。プログラムが始まると、15期生の緊張も少しずつ解けて、笑顔が見られるようになった。14・15期生が混じって体験をするうちに、お互いの距離も近くなり、終始楽しい雰囲気の中でプログラムが進んだ。15期生を迎え入れ打ち解けようとする、14期生の気持ちが伝わってくるプログラムだった。



環境教育プログラム実施のふりかえりとわかちあい(14期生)

自分たちが実施した環境教育プログラムについてふりかえる時間。お互いが率直にフィードバックできる関係が築かれていて、それぞれの意見をていねいにメモしていた。緊張から解放された安堵感で終始和やかに進んだが、さらに良いプログラムを作りたいという思いが感じられた。



講義：環境教育概論①(15期生)

「“環境問題”と聞いて思い浮かべるもの」を、一枚の紙に一つずつ書く。その問題が「地球的アプローチ」か「地域的アプローチ」か、また「人と人との関わり」か「自然と人との関わり」か、自分が思うところへ貼っていく。ゴミ問題ひとつとっても、地球的に捉える人もいれば地域的だと思う人もいる。同じ問題でも捉え方は人それぞれということが分かる。そこから、環境教育が扱う領域の広さを知る。



目的の共有化（ねらいの確認）・自己紹介

講座のねらい、スケジュールなどを説明した後、席を円に囲んで自己紹介。自分を表すキーワードを紙に三つ書き、一人ひとりが自己紹介をした。一人の持ち時間は 60 秒。与えられた時間の中で、自分のことを伝える難しさを感じたようだ。

環境教育プログラムの体験②：ナイトハイク

14 期生と 15 期生と一緒に、夜のプログラムを体験する最初で最後の時間。月明かりが流れる雲を照らし、ライトを持たずに歩けるほどの明るい夜。キャンプ場のすぐ近くで鹿を見たという話に、驚きの声があがる。ゆっくりと森の中を抜け、やがて草原へ。一人ひとりが思い思いの場所に寝転がり静かに時間を過ごす。しばらくして一度集まり、次に輪になったまま再び寝転がる。一人きりとはまた違う感覚に包まれた。

2 日目：思いをつなぐ

アニマルパスウェイの見学

14 期生が前期講座の実習で作業をした「アニマルパスウェイ」を全員で見学。「アニマルパスウェイ」は、道路で分断された森と森をつなぐ動物の通り道。ヤマネをはじめ多くの動物が、道路の上に架けられたこの橋を渡ることが期待されている。講座のテーマ「日本の森を元気にする」の、キープにおける取り組みの一つとして 15 期生にも紹介された。14 期生が作業をした時点では、まだ架設されていなかったもので、完成した「アニマルパスウェイ」は初めて目にする事になり、自分たちの作業が形になったことに感慨深い様子だった。



実習：ディスカッション「日本の森を元気にする」

講座のテーマでもある「日本の森を元気にする」を議題に、個人で、そして全員で、現在の森が抱える問題から未来の日本の森について考えた。最終的には、誰にでもできる日本の森が元気になる具体的な方法を導き出した。「国産材を使う」「生まれた子ども 1 人につき、1 本の木を植える」「森の魅力を伝える CM をつくる」など様々な意見が出た。これを実践し、身近な人に伝える方法について、インタープリテーションの考え方とともに 15 期生は学んでいく。



講義：企業における CSR について

NEC の山辺清和さんより、企業における環境への取り組みについて、お話をいただいた。将来や就職について考える時期にある学生には、関心の高い話題が多く、その後の質疑応答でも多くの質問が出ていた。



14期生クロージング

14期生と15期生が一同に顔を揃える最後の時間。「この講座で学んだこと・学びたいこと」「14期生から15期生へのメッセージ」と、今の率直な気持ちを紙に書き、お互いに見せ合った。最後には14期生一人ひとりが言葉を選びながら、自分の思いを15期生に伝えた。この講座で生まれたつながりを大切にしたいという気持ちに溢れていた。



講義・実習：コミュニケーションワーク & 体験学習法

名前を呼びながら、紙のボールと生卵を投げ合う「ネームトス」という実習を行った。紙のボールでは気持ちに余裕があり、笑い声も聞こえてきた。生卵になると割ってはいけないという気持ちから、慎重に投げ合っていた。実習を通して、コミュニケーションに大切なことが何か考えるきっかけになった。



次に3～4人のグループに分かれて、「ネズミの家族」という実習を行った。離れた場所に置かれた絵本の挿絵を一人ひとりが見て覚え、グループで話し合いながら正確に模写できるかという内容。その後、作業の過程でコミュニケーションについて気づいたことをふりかえり、合わせて体験学習法の考え方について講義を通して学んだ。

スタッフトークセッション

環境教育の現場で働くスタッフの生の声を聞く時間。「働く(学ぶ)きっかけ」、「楽しいこと・大変なこと」「一番やりがいを感じる事」などの質問に、スタッフ一人ひとりが答えていく。真剣に答えるスタッフとそれを熱心に聞く15期生と、この時間を通して、お互いの距離が縮まっていくのを感じた。



3日目：自然と人をつながる

環境教育プログラムの体験③：道草ハイク

3日目も天気に恵まれ、絶好のハイキング日和。元気な掛け声とともに、まずは準備体操。15期生同士もすっかり打ち解けあっている様子。森に入り、2つのグループに分かれて行った「目かくしイモムシ」では、目を閉じて列になって歩き、落ち葉を踏む音、木の感触、太陽の位置や風の吹く方向を感じた。



溪谷へ降りていくと、岩のすき間から流れる水が凍り、見事なつららができていた。大きなつららを割り、ほお張る学生もいた。明るい溪谷沿いの遊歩道を、それぞれが興味あるものを見つけ楽しみながら、終始和やかな雰囲気です歩いた。溪谷を抜け、帰り道の森の中でお弁当を広げた。食後にそれぞれが森の中で気に入った場所を見つけ、一人でゆっくり過ごした。ぼかぼか陽気の中、心地よい時間が流れた。

実習：デジカメスライドショー作り&発表

グループに分かれて、デジカメスライドショー作りの実習を行なう。2日目のディスカッションの中で出た「森の魅力を伝えるCMを作る」という意見をもとに、実際にそのCMスライドショーを作るという課題が与えられた。まずは、素材となる写真を撮りに、各グループとも野外に飛び出す。日没が早いので、時間との勝負。限られた時間の中で、グループの中での自分の役割を考えながら、素材集め、台本作り、パソコンでの編集など、様々な作業を並行して進めていく。どのグループも制限時間いっぱいまで編集作業に没頭した。

出来上がった作品をお互いに鑑賞し、評価しあう。アップテンポの音楽に乗せて楽しい雰囲気が画面から伝わるスライドや、美しい風景写真の中にメッセージが込められているスライドなど、どのグループも個性的で面白い作品を作り上げていた。発表後には、体験学習法の視点から、作業の過程についてふりかえり、次回の実習に向けての課題についても話し合った。



講義：体験学習法の理解

デジカメスライドショー作りの実習を踏まえて、体験学習法の考え方について理解を深めた。合わせてインタープリテーションについて概論的な講義があり、インタープリテーションは環境教育の一つの手法であるということも学んだ。

4日目：人に伝える



講義：環境教育概論②

環境教育プログラム実施に向けて、実際に自分たちで行なうプログラムをどのようにデザインすれば良いのかを学ぶ。今までに体験したプログラムを参考に、プログラムを組み立てる上で必要な視点、プログラムの様々なスタイル、そして流れを意識することを理解した。

環境教育プログラム実施&相互評価

自らが環境教育プログラムを実施することで、インタープリテーションについての理解を深めていく。

まず、「導入」「展開」「まとめ」という流れに沿ってグループを3つに分ける。スタッフから参考として提示されたプログラムの内容について説明を受け、準備を進めていく。どのグループも実際にフィールドに出て、予行演習を繰り返しながら、プログラムを組み立てていった。制限時間内にできる限りの準備を整えて、いよいよ本番。

「導入」のプログラムは、「森で楽しく自己紹介」。森にある素材を話題に用いて、自己紹介をするというもの。「展開」のプログラムでは、グループに分かれ、色見本のカードの同じ色を探す「色さがし」。寒々とした初冬の森に、こんなにも多くの色があることに驚きの声が上がっていた。最後の「まとめ」は、与えられた文字から森で感じたことを文章に綴る「森のあいうえお作文」。自然と静かに向き合う時間を演出していた。

実施後、参加者からのフィードバックを参考に、良かった点、改善点を話し合い、プログラムを練り直した。次回は、改善案を踏まえて、まだ見ぬ16期生に向けて再度プログラムを実施することになる。



講義：環境教育概論③

実習を踏まえて、インタープリテーションの考え方について整理する時間。インタープリテーションには、「インプット」「編集」「アウトプット」という3つの段階があること、またインタープリターには「感受力」「想像力」「創造力」という3つの力が必要であることを知る。





講義：安全対策

自然体験活動で欠かせない視点である、安全対策についての講義。まず全員で、プログラムの体験や実施において、野外で危険だと思われるものを各自が思いつままに紙に書いていく。様々な危険因子が考えられたが、心の危険など目に見えない側面もあることを知る。参加者とのコミュニケーションが安全につながることも学んだ。

環境教育プログラムの体験④：ナイトハイク

1日目とは違い、15期生だけで過ごす夜の時間。森の中を歩きながら、視覚以外の感覚が研ぎ澄まされるのを感じる。森を抜けて草原へ出ると、1日目と同じように一人になってしばらく静かに時間を過ごす。再び集まり、どんなことを感じたのかを一人ひとり感想を述べていく。月明かりに照らされた幻想的な夜だった。



5日目：ふりかえる

補いの講義

これまでに学んだ内容を整理する時間。体験を学びに結びつけること、インタプリターに必要と思われる力、そしてインタプリテーションの考え方を日常で実践してほしいという内容で講義はまとめられた。



フリップボードディスカッション

席を囲み、皆の中から出た質問について、全員で答えていくという形式で進行。「人を受け入れるにはどうしたらいいのか？」という質問については、「コミュニケーション自体が“受け入れる”こと」、「認めてあげる」、「相手を理解するように努力する」、「無理しなくていい」などの意見が出た。その他、「講座で学んだことを自分の周りの友達に伝えるにはどうしたらいいか?」、「みんなの夢は?」などの質問に対して、全員が紙に記入し、それぞれの考えや思いを発表した。



15期生クロージング

最後に一人一言ずつ感想を言い合う場面では、ほとんどの学生が感極まって声を詰まらせていた。14期生のクロージングの時は分らなかった感情が込み上げてきた。お互いを認め合うこと、この場にこの10名が出会えたことに感謝しながら、次の再会を楽しみに、5日間に及ぶ講座を終えた。

■Bコース：キープ・フォレスターズスクール

講座終了後の15期生の感想です。

私はいつも、自分から意見を言うことがほとんどなく、自分の意見、主張があっても聞き方にいつもまわっていました。しかし、この講座で気づかされました。自分の意見は、口で伝えないと絶対に伝わらないんだと。積極的に議論に入っていかなければならないと。このことが、この講座で一番に学んだことであると考えています。

講座を終えて帰宅してから、自分の意識と行動が変化していたことにはとても驚いた。原因はよくわからない。誰かの言葉や行動が心に残ってそうしようと決意したわけではなく、いつのまにかそうになっていた。つまり講座の一部分ではなく講座全体からそれらを学んだのだ。講座の雰囲気は私に自発を促した。だから私はこの講座が大変魅力的だと思うのだ。強いて言えば、私は講座を通して「可能性」と「責任」を感じたのだと思う。今まで知識を持っていながら行動にうつさずにいた自分が、地球に生きる1人として環境に対する責任を感じている。

この講座で私は同世代の仲間の環境問題や世界平和への気持ちの熱さ、環境問題を捉える視点の多様さに感動しました。私一人では何もできません。だけど私は一人ではないということを実感できたのです。この講座で得た人とのつながりと人の温かさはこれからも大切にしていきたいし、普段着インタープリターとして周りの人を巻き込んで環境活動をしていきたいです。

人と関わることをどこかで面倒に感じていた自分の中に、相手を知りたい、相手から学びたいという気持ちが芽生えたのは非常に大きな変化でした。自分も他人もあまり好きで嫌いだったのですが、相手を認める、ということに心がけるようになってから自分も含めて人が好きになれたし、人とのコミュニケーションがすごく楽しく思えるようになったのです。

目だけでなく、手や耳など身体全体で森を感じることを学びました。また実習では、森をツールに他の人に自分たちの伝えたいことを伝える方法とその大切さを、グループワークを通して学びました。また、お互いの意見を受け入れること、共有することは物事を進めていく上で、避けておれない道であることも強く感じました。そして私は自分がこの講座を受けて学んだこと、感じたことを他の人にももっと伝えたいと強く思いました。

この【NEC 森の人づくり講座2007・秋】に参加することができて、本当に良かった。これが私の率直な気持ちです。この講座を機に様々な考え方や発想を得ることができたし、自分自身が本当に自然環境に興味・関心を持っているのだと改めて実感することができました。そしてなにより、同じ方向性を持つ仲間と出会えたことは、自分の中でとても大きなものとなりました。

知らない場所に知らない者同士が集まっていきなり一緒に生活を始めるわけであるから、最初は誰しもが緊張していたはずである。が、その夜の交流会ではみんなが打ち解け合っていて一つの輪ができていた。そしてその輪は最終日が近づくにつれより濃密なものとなっていった。一人ひとりが自分の正直な気持ちを開示し、受け手はそれを相手を尊重した上で理解しようと努める。そんな場がここでは自然と形成されていたように思える。講

座の大きなテーマの一つである、コミュニケーション、人と人とのつながり、そこから環境教育を実践し、環境問題に対して取り組んでいくという視点は、今までの自分には無かった。あったとしてもこれほど強くは意識することができなかったものである。講座を通し自分を開くことで「可能性」が広がるということを実感し、実践していくきっかけをつかめた。

今まで自然のこととか、環境のことについて興味がある気持ちの種が自分の中にあるということを手にとり感ずることは出来たけれど、その種をどうしていいかわからず、特別触れようともせずいた。でも、KEEPで過ごした日々はその種を大切にしてくれた。私の中ではこのことが、これから自分がどう環境教育活動に関わっていくかに影響を与えたと思う。この講座を通じて自分の環境への興味に芽が出た。私も自然にふれる機会の中で、人の心の中のどこかへ環境への興味を、小さくてもいいからまきたいと思うようになった。また私がしてもらったように、すでに種を持っている人へはその種の芽を出す手伝いをしたい。

私は大学で林学を選考しているため、今まで「自然」の視点から環境教育を見ていた部分もあり、科学的な視点にばかりとらわれていた気がしました。しかし、本講座では、森林という場所をフィールドにおきながら、自然界への感謝の気持ち、人が感じる感覚等、人と人そして人と自然との大切な結びつきについてとても深く考えさせられたように感じます。同時に、今までそれらの感じ方、大切な意識が希薄になってしまっていたように感じました。また、とにかく本音で話すことの大切さ、人を受け入れて初めて相手に受け入れられる感じなど、生きていく上で大切なことを教えていただいたように思います。

本講座で感じた「環境教育」とは、生まれてからの「環境」を生きていく上で、とても大切な教養のような気がします。今後、環境教育という考え方をういた上で、人に理解してもらえるような活動を企画していきたいと思っています。

日々の発見を身近な人と共有するという普段着インタープリターの考え方をすれば、私も十分環境教育と関わっていくことができます。そのような意味で考えると、自分が環境に興味があると知ってもらえることもまた、大きな意味での環境教育になるのではないかと感じました。また、今回ネットワークの大切さについても感じました。全国のあらゆる団体が色々な環境教育などの環境活動を行っていて、私が住んでいる福岡でも活動している団体がありました。そのような団体に参加することも考えたいと思います。

環境教育や地域での取り組みを増やしていく活動をこれから実践していきたいと思っています。まず、この環境教育という概念や活動は根本的に自分の生活から始まっているからです。どこか特別な場所へ行かないと問題を凝視できないというわけではないむしろいつもの生活を見直すことがきっかけとなっていくんだと体験をして感じました。